



平成 30 年度 南小学校区 第 2 回地域コミュニティ連絡会のまとめ



作成：三島市役所 地域協働・安全課 きずなづくり推進室（TEL：055-983-2708）

10月15日（月）に開催された「平成30年度南小学校区第2回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。当日の発言や意見をまとめた資料ができましたので、送付いたします。（三島市のホームページにも掲載しています）

■開催概要■

日 時	平成 30 年 10 月 15 日（月）19:00～20:35		
会 場	消防署		
参加団体 (31名)	中央町自治会 富田町自治会 青木町内会 新谷自治会 藤代町内会 モナーク三島自治会 三島市立青木保育園 公立保育園父母の会	南幼稚園 南幼稚園 PTA 私立のびる幼稚園 私立のびる幼稚園 PTA 南小学校 南小学校 PTA 南小おやじの会 南中学校	南中学校 PTA 学校支援地域本部 体育振興会 保健委員会 民生委員・児童委員 地域包括支援センター三島 三島市社会福祉協議会 保護司

■次第■

開会・市長あいさつ

- 1 「コミュニティ連絡会について」
- 2 「地域の情報を共有しよう」
- 3 「現在の状況を確認しよう」
- 4 「地域でできることを考えよう」
- 5 「話し合いの内容発表」
- 6 「アンケート記入」



「地域の情報を共有しよう」のまとめ

各団体間の情報やお願いしたいことなどを共有しました。

【地域の情報共有】

司 会：学校支援地域本部で子ども見守り隊の動きがあったようなので、報告いただきたい。

学校支援地域本部：前回の会議で、子ども見守り隊の話をさせていただいた。その後、南中学校も賛同くださり中学校の学校支援地域本部の予算で、保護者用に見守りカードを配布して貰った。ちょうど不審者情報が多かったこともあり、皆様の関心も高かった時期であったと思う。青木保育園、南幼稚園、のびる幼稚園に見守りカードをお渡ししたい。⇒《贈呈》⇒ありがとうございました。

のびる幼稚園：保育園部、幼稚園部が一つになり、4部連携型になり新しくなった。10月20日にのびる祭りを予定しているので、新しくなった部分も含め見に来てほしい。連絡会を通じて知り合った青木保育園にプールに遊びに来てもらった。南幼稚園とも交流をはかりたい。

南幼稚園：3歳児保育が始まり、昨年の34人から今年は55人に増えた。園庭開放をしているので遊びに来てほしい。11月7日におゆずり会を予定している。

南中学校：中学生には地域の行事に参加するように指導している。なかなか参加しないかもしれないが、あきらめずに誘ってほしい。

体育振興会：お年寄りでも楽しめるグランドゴルフ、ミニテニス、女性バレーボールを行っているので参加してほしい。

藤代町町内会：町内に協力してくれた中学生に参加証として賞状を渡している。

地域包括支援センター：10月27日に「在宅医療と介護」の講座を行うので参加してほしい。

議題：南小学校区コミュニティ協議会の設立について

参加者：これまでの連絡会では、問題点を挙げるところで終わってしまうため、解決につながらなかった。毎年ゼロからのスタートになってしまうため、是非とも協議会にして、取り組みを変えていきたい。

参加者：連絡会と協議会の違いが分からない。連絡会でも協議会で行う内容ができるのではないかと毎年、同じメンバーにはならない。

参加者：他地区でも毎回ゼロからのスタートという問題点があった。協議会にして解決に結び付けたい考えはあるが、協議会をするには誰かが役員をやらなければならないので負担になる。

秋 山：今回の子ども見守り隊の活動を通じて、連絡会でこのような活動ができるのなら、協議会にして話し合う場を構築したいと考えた。

長 澤：どこの小学校区でも徐々に連絡会の参加者が減っているのが現状である。協議会では、防災面においても組織を越えてつながることできるため、お互いに知る機会になり、地域を豊かにしていくことにつながる。

参加者：こういった会議を含めて、効率的に進めようとするのは理解できる。何かをやろうとする時に、嫌々で集まる組織と楽しい組織にわかれるが、ここでは楽しい組織にして効率的にやっていきたい。

参加者：町内会でも役員をする人がいない。(協議会にしても役員が課題となる。)

秋 山：協議会役員はある程度、内諾をいただいている。

参加者：役員は固定化すると思うが、その他のメンバーも固定化するのか？

参加者：新しい参加者を積極的に受け入れる協議会にしたい。市や公共団体に所属している人に限らず、民間で活躍している人や前年度の自治会長などにも相談役として参加してもらいたい。組織に属していないと参加できないような仕組みにはしたくない。開かれた協議会にしたい。

参加者：台風 24 号の経験から市（行政）に頼らず、地域のことを地域で守っていく必要があると感じた。災害の事を考えても、地域の事を考える協議会の存在は大事だと思う。役員の負担は課題だと思うが、進んでいかななくてはならないと感じる。協議会の存在を広く知ってもらう必要があると思う。協議会が立ち上がったら、子を持つ親として参画したい。この地区には、しゃぎりや運動会などの取り組みがあり、強みとなると思う。

参加者：小さな子を持つ親として、この時間帯に会議に参加するのは難しい。家族の協力があつたから参加できたが、そのような保護者ばかりではないと思う。

秋 山：会議をするために人を縛ることはしない。全体会は年に 1～2 回で良く、各議題に興味を持った人が参加できる協議会にしたい。

参加者：子ども見守り隊の活動がどのように広がったのかがわかり、良い活動だと感じた。この時間に子どもを家において参加するのは大変だが、幼稚園で役員会があるので議題を役員会におろして幼稚園として意見を出してもいいと思った。

参加者：参加者が変わるとゼロからのスタートになってしまう。半分は協議会に残るなど、総入れ替えがないように任期に工夫が必要ではないか。

秋 山：自治会長などの任期を終えても、自治会長 OB として参加してもらうなどの工夫を考えたい。

参加者：連絡会だとその場限りの集まりになってしまう。まずは組織作りに取り組み、その後、どのように運営をしていくのが課題となる。東地区や西地区の隣り合う協議会相互のつながりも大切になると思う。

参加者：こういった機会に他地区の見守りの情報があるといい。

参加者：協議会発足後の利点、問題点はあるのか？その点を踏まえて協議したい。

三島市：東小学校区では、スクールガードが行っていた見守りについて協議会全体で行っていくことになり、見守り用の腕章を作成して、普段の生活の中で実施し、グループワークで振り返りをしている。また、絆や防犯をテーマとした子どもの絵やポスターを協議会として作成してもらって表彰し、ヨーカ堂で作品展示している。課題は、会計、発送業務等の担当がいなくてであり、市職員が手伝っている。西小学校区では、協議会主体で県防災センター視察、地域の歴史を学ぶ勉強会等をしている。課題は、役員のなり手がいないことである。

参加者：県の社会福祉協議会から事例の紹介はあるが、地域の特性は地域の人にしかわからない。集まる場をつくっても道の高低差を含めて、高齢者は自分で移動できる範囲でないと行けない。我々が自ら課題を見つけて解決していくしかない。

参加者：協議会になったら、地域が主体となって互助の活動を考えてほしい。活動のお手伝いをしたい。

参加者：手を差し伸べるだけでなく、地域の歴史を知る機会をつくるなど、誰かが知っていることを広めるような活動に取り組んでいくこともこの協議会の意義だと思う。

秋 山：皆様と意見交換をし、協議会設立の理解をえるためには具体的な形を示す必要があると感じた。その準備のための時間をいただいて、役員や規約などの案をつくり、来年5月か6月の協議会設立に向けて「協議会準備委員会」の設立を考えたい。

長 澤：準備委員会の設立について採決したい。⇒《結果》賛成：22名、一任：3名⇒合計25名。参加者29名であることから、十分に過半数である。協議会準備委員会の設立を決定した。

